



学芸員が思いのままにつづる、ミュージアムのこと、日々の仕事のこと。
展示に直接携わる学芸員の言葉の中から、
ミュージアムをもっと楽しむヒントを見つけてください。

CHAPTER
8

地底の森ミュージアム

学芸員 鈴木 英梨さん



地底の森ミュージアムでの私の仕事は、お客様への展示解説や市民文化財研究員の活動、企画展の準備などです。広報も担当していますが、その中のひとつとして、「エフエムたいはく」内で「ほっとすてーしょん地底の森だより」という番組を放送しています。ミュージアム施設の広報としては、ちょっと珍しいでしょうか。ラジオの中では、地底の森ミュージアムや兄弟館である縄文の森広場の展示やイベントの情報を中心にお知らせしていますが、時々、他の施設の方をゲストにお呼びすることもあります。ミュージアムの「中の人」である私ですが、様々な施設の展示のみどころを学芸員さんからお聞きしている時は、私もお客様の気持ちになってワクワクしてしまいます。



ラジオの向こうで聞いていただいている人のことを想像しながらお話しするのはとても難しいですが、普段の展示解説という仕事では味わえない不思議な感覚です。好きな楽曲をかけながら、地底の森ミュージアムの日々のどんな様子をお伝えしようかな、と考える時間が、館内での仕事の合間の、ちょっとした「ひと休み」になっています。

直近のおススメイベント情報

ー9月23日(月・祝)特別企画展「センダイ 遺跡の記憶」
9月15日(日)13:00-15:00
特別企画展関連イベント「つくってみよう きみだけの宝もの」



SMMAとは

知的情報資源である仙台・宮城地域のさまざまな博物館が協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを集積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指します。

WEBサイト 見験楽学 仙台・宮城ミュージアム情報局

SMMA参加館の学芸員をはじめ現場スタッフによるとっておきの情報や、地域のミュージアムならではの情報をお伝えします。地元のみなさんはもちろん、旅行で訪れた方々にもおおいに役立ち、楽しみながら発見や体験をしていただけるウェブサイトです。

www.smma.jp



発行・問い合わせ先: 仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局 仙台市青葉区春日町2-1(せんだいメディアテーク内)
電話: 022-713-4483 ファックス: 022-713-4482 電子メール: office@smt.city.sendai.jp ウェブサイト: https://www.smma.jp
編集/清水 テナツ デザイン/ANTWORKS イラスト/よしだみさこ 写真/長崎由幹 発行日/2019年8月30日 掲載した記事・情報は発行日の段階のものです。
この紙はリサイクルできます



ミュージアム de ブレイクタイム



SPOT 仙台市縄文の森広場

約4000年前の大きな縄文ムラであった山田上ノ台遺跡(やまだうえのだいせいせき)を保存し、縄文文化に直に触れて感じることでできる施設です。さまざまな縄文体験に挑戦できます。

開催中のイベント

ー10月20日(日)
「東北の縄文遺跡(1)山形県尾花沢市漆坊遺跡」



国 仙台市太白区山田上ノ台町10-1
☎ 022-307-5665
開 9:00-16:45(入館は16:15まで)
休 月曜(祝日の場合は翌平日)、第4木曜(12月を除く)
入 一般200円、高校生150円、小・中学生100円

縄文ワクワク体験

手を動かしながら、縄文人の心と技を知る—そんな体験ができるのも、縄文の森広場の魅力のひとつ。多彩な体験学習の中から今回は土にまつわるものをご紹介します!

体験学習の受付は9:00-11:30、12:30-15:00。個人や少人数の場合は、予約不要。幼児から参加できるメニューもあります。約1~2ヶ月間じっくり乾燥させ、焼成してからのお渡しとなります(作成日にはお持ち帰りにできませんので、ご注意ください)。材料費には焼成代が含まれています。

手形・足形



所要時間:
30分~
材料費:
100円

土笛・土面



所要時間:45分~ 材料費:100円

土偶



所要時間:
45分~
材料費:
100円

縄文土器



所要時間:
ミニ:60分~
小:90分~
大:120分~
特大:180分~
材料費:
ミニ:100円
小:200円
大:400円
特大:800円
※特大は午前中のみ受付

手でこね、火で焼き上げる—縄文の森広場 近隣のおすすめ店

ピッツェリア ダ・ブリオ

約450℃の薪窯であつという間に焼き上げる、熱々で香ばしい本格ナポリピッツァ。テイクアウトも可

国 仙台市太白区山田上ノ台町1-9 ☎ 022-243-2180
開 (ランチ)11:30-14:00 (ディナー)17:30-20:00 火曜+不定休有



左:チコリ(モッツアレラ・リコッタ・豚バラフリット・黒コショウ) 1700円
右:マルゲリータ(モッツアレラ・バジリコ) 1300円
ランチセットは、ミニサラダとドリンク付き

天然酵母パン オフルニル デュボワ

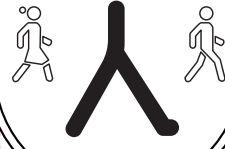
北海道産小麦、伊達の旨塩など厳選したシンプルな素材と自家製天然酵母で焼き上げるハード系パン

国 仙台市太白区鉤取本町1-17-21 ☎ 022-399-6588
開 11:00-17:00(なくなり次第終了) 火曜・水曜



上:田舎パン(ハーブ) 450円
下左:ひまわりの種プチパン200円
下右:チョコとヘーゼルナッツ330円

シリーズ



SMMA参加館ゆかりの人物にせまります。
人を知って、
収蔵品をもっと身近に、
もっと楽しく。

木村 有香 (1900-1996)

明治33(1900)年石川県生まれ。ヤナギ科植物を専門とした植物分類学者。旧制高等学校在学中に原始的な形態で生きた化石といわれるクモ(のちに「キムラグモ」と命名された)を発見したことも知られている。ヤナギは雑種が多く、分類がやっかいであることを知り、ヤナギ研究の先駆者として生涯、研究を続けた。東北大学植物園の初代園長。



大学時代から95歳まで ヤナギを研究し続けた 生粋の研究者

ヤナギは春から夏にかけて葉の形や大きさも変わり、雄雌で異なる性質があり、雑種も多く、研究者の間でも「ヤナギというやつは実にイヤなものだ」と語られていました。それを聞いた木村有香は「よし、そんなに難しいものなら、やってやろう」と奮起し、九州から北海道まで全国のヤナギに番号をつけ、同じ個体から季節ごとに標本をつくり続けることで研究を重ねました。木村の東北大学定年退官後の翌年1964年に、木村が蒐集したヤナギ科植物の標本や資料を収納する「ヤナギ館」が植物園内に建設され、その研究は、死去の前年まで続けました。

世界に類のない ヤナギコレクション

ヤナギ園には、木村の蒐集した世界のヤナギ科植物の標本木の充実したコレクションが栽培されています。一本一本、丁寧に学名が付された木々の間を歩くと、まるで植物図鑑の中に迷い込んだかのようです。現在も国内外からの積極的な蒐集が続けられ、世界に類のないヤナギコレクションが日々、育まれています。



木村有香が採集した「センダイヤナギ」の標本



現在3350㎡のヤナギ園に約600株、500㎡の鉢場に約550鉢のヤナギが栽植されている

ここでもっと知る!

東北大学植物園

国 仙台市青葉区川内12-2 ☎ 022-795-6760
開 9:00-17:00(入場は16:00まで)
休 月曜(祝日の場合は翌平日) ※12月1日-春分の日の前日までは冬期休業
入 大人230円、小・中学生110円

これらのイベント

11月3日(日・文化の日)
「紅葉の賀」